



## 「産業ツーリズム」との好循環による 地域活性化をめざす取り組み

「産業ツーリズム」の取り組みを通じて、産業振興、まちづくり、人づくりを進め、地域活性化との好循環が生まれつつあります。  
さらに、周辺地域との連携を深めながら、「産業ツーリズム」の魅力を高め、好循環を加速させる取り組みも進められています。



「西宮は人口47万人。その1人ひとりが大切なお客さんです。自分たちの住むまちの魅力を感じてもらい、西宮の良さを全国へ発信してもらいたい。このまちに住まうことの楽しさを発信していくことが、私たちの目指している「都市型観光」のあるべき姿の1つなんだと思います。」

- ▶活用した資源 西宮市内に本店を構えるケーキ工房など
- ▶開始時期 平成12(2000)年度より(第1回「西宮洋菓子園遊会」開催)
- ▶概要 「ケーキ工房のあるまち西宮」  
バイキング形式でケーキ好き300人にパティシエたちが繰り広げる製作実演のパフォーマンスと3000個のケーキが振舞われるイベント。

### 市・商工会議所の呼びかけでスタート。今では参加店がリードするイベントへと成長

平成12年に市と西宮商工会議所の呼びかけでスタートした西宮洋菓子園遊会は、現在では、参加者が主体となり、企画案の検討や市内洋菓子店へのイベント参加の呼びかけなども、パティシエが中心となり進められている。

西宮洋菓子園遊会は、単なるケーキバイキングのイベントではなく、「お互いに刺激し合い、西宮の洋菓子店の技術を向上させよう！」と毎回テーマを決めてデコレーションケーキなどの製作実演をおこなってきた。このような取組みが各店の熱意や結束力を高めてきた。

「5回目の洋菓子園遊会の実行委員会で、「若手パティシエにマジパン細工を教えて欲しい」という要望があり、そのことがパティシエによるパティシエのためのマジパン講習会の開催へと発展しました。今回もマジパン細工のノウハウを持つ洋菓子店のパティシエが講師となり、参加者がパーツごとに役割分担してデコレーションケーキを共同制作しました。本当のところ、秘密にしたい技術なんだと思いますが、西宮の洋菓子店の技術向上のために協力くださっており、地域に愛され、喜ばれるお店を目指したいと精を出しておられます」（坂本さん・西宮市産業振興課）



第7回のテーマは「園遊会に福来る」と題し、西宮神社での開門神事福男遊びの光景をデコレーション。人や鳥居、タイル全てがマジパンで製作されている。

### 「ケーキ工房のあるまち西宮」をキャッチフレーズに、さまざまな取組みが展開される

イベントを開催することで、「ケーキ工房のあるまち西宮」をキャッチフレーズにさまざまな取組みが展開され、その波及効果が広がってきている。

まず、西宮洋菓子園遊会参加店の中で、普段つきあいの交流が生まれ、そのうちの6店が集まり、各店の洋菓子が六段の紙のお重に入った商品「六門選」を共同開発し、共通で店頭販売するようになった。

波及効果としては、神戸等のデパートへ出展する機会や雑誌等で紹介される機会が増えてきている。また、市内に新規出店する洋菓子店も増加している。

さらに、周辺都市でも地域特性を生かしたイベントが開催されるようになり、宝塚市では市内農産品を使った創作ケーキ等がふるまわれる「おいしいまち宝塚」が、伊丹市ではベルギーの姉妹都市をヒントに、チョコレートテーマとした「伊丹ちょこリンピック」が、それぞれ開催されている。



「六門選」は、各ケーキ店のお菓子が六段のお重に詰められたもの

### 観光・集客交流事業の取組みに対する意識

— 市民は大切なお客さんであると同時に、市のPRにも一役買ってもらいたい —

西宮市では、ショッピングやコンサートなど、市民の皆さんに自分たちの住むまちをもっと楽しんでもらいたいという思いを込めて「都市型観光」の研究をスタートし、「西宮ブランドインキュベーション事業」として、平成12年度より各種取り組んできました。

事業開始当初、当時の担当者が電話帳を眺めていると市内に洋菓子店が多いことに気づき、調べてみると、家族経営の小さなお店を中心に、100店ほど立地することが判明。そこで、「この人たちと一緒に何か進めてみると「都市型観光」の目的に加え、「産業振興」にもつなげていけるかもしれない」と思いついたのが、西宮洋菓子園遊会のきっかけになったようです。

西宮は人口47万人。市民は大切なお客さんであると同時に、市のPRにも一役買ってもらいたい。市民に自分たちの住むまちの魅力を感じてもらい、西宮の良さを全国へ発信してもらいたい。「このまちに住まうことの楽しさ」を発信していくことが、西宮市が目指している「都市型観光」のあるべき姿の1つなんだと思います。



ヒアリングに応じてくださった産業振興課係長の坂本さん

### 「都市型観光」の具体策としてさまざまな観光事業を展開。いずれも多数の集客を誇る

平成13年以降、西洋料理、日本酒、和菓子と、他の「食」でも「都市型観光」推進イベントを実施。なかでも、和菓子をテーマとした「西宮和菓子まつり」は、平成15年以降の恒例イベントとして定着している。第4回目となる今年は、駅ビル内の商業施設「エビスタ西宮」にて臨時出展ブースや「四季」をテーマとした和菓子展示コーナー、上生菓子製作実演コーナー等を設置し、にぎやかなイベントとなった。

「お酒」をテーマとしたイベント「酒ぐらルネサンス」では、市内の酒蔵などを巡ることができる無料循環バス「西宮の酒文化巡り号」の臨時運行、商店街や神社を会場とした西宮の酒蔵をPRするパレードやステージイベントなど盛り沢山の内容で、毎年、2日間で約10万人の集客を誇る。

また、震災後の西宮のまちの復興と新たな魅力を再発見してもらうことを目的とした「にしのみや再発見バスツアー」は、砲台の内部や市内企業の社内見学など、普段見ることができない市内スポットをバスで巡るツアーであり、参加者からは「知らないところいっぱい行くことができ、とても楽しかった！」と好評を得ている。



酒ぐらルネサンスで行われる「新酒番船パレード」では、にぎやかな音楽とともに、大勢の踊り手が練り歩く。

### 今後の取組み意向や「夢」、課題

- 「西宮洋菓子園遊会」は、イベントの付加価値を高めるため、新たな趣向を組み入れる（現在、具体的に検討中）
- 一連の観光振興の取組みと、「産業振興」とのつながりの明確化（例えば、普段の売上など）
- 甲子園球場や西宮神社など、集客力の高い観光・集客資源と、一連の取組みで発掘・グルーピング化したお店や団体とを、線的・面的にうまくつないだ「芸術・文化のまち 西宮」としての地域のさらなる振興
- 周辺都市との取組み連携（例えば、観光資源、宿泊施設が多い大阪、神戸など都心部との連携）



●西宮ブランド・インキュベーション事業実行委員会  
(西宮市・西宮商工会議所・市内洋菓子店)  
【お問合せ】西宮市産業振興課  
TEL: 0798-35-3331 所在地: 兵庫県西宮市  
アクセス: 阪神西宮駅下車



- ▶活用した資源 豊かな自然環境（美しい星空）、キャンプ場、スポーツ施設、農林業体験施設、厩舎など
- ▶概要 旧名田庄村の第三セクター・名田庄商会が中心となって、特産品開発、製造販売を行ない年間2.5億円の売上げ。それを原資として各種地域づくり事業のほか、名田庄あきない館、道の駅名田庄及び町営ホテル「流星館」の管理運営を行っている。

### 特産品販売と宿泊、体験事業を融合した地域活性化

名田庄商会は、旧名田庄村、JAわかさ、森林組合、商工会が出資する第三セクターとして、昭和59年に設立。「ひとづくり」、「ものづくり」、「環境づくり」を理念の柱に、マーケット志向、販売重視の姿勢で、地域の素材を活かした特産品の開発・製造販売を行っている。独自の特産品は40品目に達し、直売所「名田庄あきない館」、「道の駅名田庄」などで年間2.5億円を売上げており、その波及効果は10億円とも推計。そして、その利益は地域に還元していくことが約束されている。

また、物産と観光とが融合した「複合型経営」を目指す取り組みも名田庄商会では始まっている。豊かな自然環境（美しい星空）やスポーツ施設、安倍晴明にゆかりのある厩舎館といった地域資源も豊富に存在。それに、地域で取り組まれている「名田庄体験教室」というソフトを組み合わせながら、同社が管理運営する町営ホテル「流星館」の事業との連携も進めている。高齢化が進み、農家の後継者不足も顕在化しているなかで、滞在型観光地として、交流人口を増やし、都市から農村へ定住し農業の担い手づくりの契機となることが期待されている。

年間48万人が訪れる道の駅をはじめとして、「名田庄あきない館」や「そば処よって亭」など、地域独自の特産品の魅力を最大限に活かしながら、集客・交流事業との両輪で、地域活性化をはかることを目指している。



美しい星空は貴重な地域資源。町営ホテルの名も「流星館」。



●(株)名田庄商会  
TEL：0770-67-2272  
所在地：福井県大飯郡おおい町名田庄小倉  
アクセス：JR小浜線小浜駅より路線バス・流星「ホテル流星館」行き、「あきない館」下車



- ▶活用した資源 竹林（農地／山地※）、京たけのこ（特産品）※農地法上、一般竹林は「山林」、京たけのこ竹林は「農地」となる。
- ▶概要 市内の放置された竹林をモデル的に京たけのこ農地として整備し、特産品「京たけのこ」がどのようにして栽培され、収穫されるのかを体験してもらい、収穫したたけのこも持ち帰ることのできる体験型観光プログラム。

### 竹にこだわり、イベントでその多様な活用方策をデモンストレーション

事業では、放置竹林を観光協会が借り上げ、体験型観光の場所として平成16～17年に整備し、養生後の平成18年春に「やぶ開き」イベントを行った。観光協会が主催者となり、協会会員、農家や造園関係者、飲食業者、市からの協力を得て、たけのこ掘り体験やたけのこ料理試食などを行い、約40人の方が参加。たいへん好評だったという。

市観光協会、市では取組みの経緯やポイントについて、次のようにお話しされている。「長岡京市に限らず、近年、竹林を管理する後継者不足、放置竹林による生態系を乱すまでの異常繁茂など、竹の問題が深刻になってきています。

また、京たけのこを育てるのは非常に難しい。極端な竹の間引き、柔らかい土壌づくり、質の良いわらによる養生など、春夏秋冬にわたる環境整備なくては、美味しい京たけのこは育てられない。何よりも、その独特の栽培ができる名人も、地域の貴重な資源です。

そこで、独特の掘り方や管理の方法を広く伝え、あわせて「掘る」という作業を体験型観光に活かすと面白いとの思いから、この事業を始めました。

竹林を保全・整備することは、農業、環境保全、景観形成や防犯（景観・見通しが良くなる）と、テーマに広がるところが面白いし、観光振興に活かせるポイントだと思います」



4月に行われた「やぶ開き」では、地域の農家の方がたけのこ掘りのデモンストレーションを行った。おもな参加者は、夫婦、女性グループ、家族連れなど。



●長岡京市観光協会  
TEL：075-951-4500  
所在地：京都府長岡京市天神一丁目1番2号  
アクセス：JR京都線 長岡京駅・阪急京都線 長岡天神駅下車



- ▶活用した資源 安土城跡、安土城考古博物館など安土城及び織田信長に関連するミュージアム群、寺社群、西の湖、安土城の堀跡
- ▶概要 安土城跡を中心に、寺社群、博物館や郷土館など、地域に点在する観光資源とネットワーク化させる観光商品を、地域住民自らが創造し、地域に観光客を呼び込む「着地型観光」を推進中。

### 多様な地域主体による`くるま座、のコミュニケーション

安土町では、平成18年度より、役場や商工会、観光協会、観光ボランティア、博物館研究員、環境保全団体など、地域の人々が観光商品づくりに向けたスタディを行う「あづち実践観光塾」を定期的実施している。

「安土は歴史ファンの人気は高いのですが、周辺の近江八幡や彦根に較べると入込み客数がかかなり小さく、受け皿となる地元体制が成熟していないのが現状です。

そこで、地域のみんなで運営し、地域の中でお金が回せるような着地型観光の商品開発の場として、商工会が音頭を取り観光塾を開催するようになりました。

滋賀県をフィールドとする観光アドバイザーの吉見さんをまとめ役に迎え、魅力豊かな観光商品の開発を目指し、今まで交流があまり深くなかった地域の人たちが`くるま座、になっているいろいろ検討しています」（安土町商工会・野瀬信弘さん）



観光商品の1つとして、安土城の堀跡や西の湖など、地域の「水(水路)」による水路循環観光ルートを和船で巡る「湖川の街道(うみのみち)プロジェクト」を現在実施中。



●安土町商工会  
TEL：0748-46-2389  
所在地：滋賀県蒲生郡安土町中1-8  
アクセス：JR琵琶湖線安土駅下車



写真提供：奈良市観光協会

- ▶活用した資源 まちなかにある観光名所（社寺、公園など）、まちなかの夜の静けさ
- ▶概要 8月上・中旬の10日間の夜、奈良の観光名所（社寺、公園など）やまちなかにてロウソクの灯りを点すイベント「なら燈花会（とうかえ）」を市民主体で1999年より開催。イベントにあわせ、コンサートやファッションショー、奈良県の地域産業物産店、広報ブースを実施。

### 地域の施設や商店、NPO会員・サポーターがイベントの魅力づくりに貢献

なら燈花会は、NPO会員による施設や商店との交渉が身を結び、回を重ねるごとに周辺が協力的になり、取組みがまちぐるみに発展。その結果、第1回は4会場のみであったが、現在では9会場で開催されているのに加えて、施設や住民が自発的に灯ろうを設置しているエリアもある。

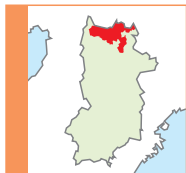
また、燈花の設置、点火、片付けは、開催期間で延べ8,000人にも及ぶNPO会員やサポーターの手で毎日行われている。昼から夜遅くまでにわたる一連の作業を会員やサポーターは楽しみながら行っており、中でも点火の瞬間は、「キレイ！私もやってみたい」という来場者の声を聞いて、参加していることを誇らしく思うことが多いという。

会員やサポーターには、小学生から70代までと幅広い年齢層が参加。中には、来場した次の日から参加する人、遠方から泊まりがけで来る人もいる。それぞれ、点火の瞬間を味わいつつ、「いろんな年齢の人と、一緒に同じことをする機会をもてるのが嬉しい」と、イベントの魅力づくりに貢献している。

ちなみに、ろうそくの製作・リサイクルを障害者自立支援の活用、竹の間伐材の使用を通じた竹藪の維持・高齢者雇用など、イベントによる地域の福祉・環境・経済への貢献も大きい。



会員及びサポーターにより、点火が行われている様子。



●NPO法人なら燈花会の会  
TEL：0742-21-7515  
所在地：奈良県奈良市内侍原町12-2  
アクセス：JR大和路線・奈良線/  
近鉄奈良線奈良駅奈良下車



- ▶活用した資源 市内モノ作り企業、まち工場
- ▶概要 中学や工業高校等の教職員、求職中の若者などを対象に、モノ作りの現場を知ってもらうことを目的とした市内工場の見学会。『「ものづくりのまち・八尾」担い手再生計画』（内閣府・地域再生計画）の一環として、年2～3回実施。

### 日ごろよりつきあいのある、〴〵八尾らしい、工場をピックアップ

見学会では、各工場が製造ラインに沿って、ものがだんだんできあがってくるプロセスを現場の人の説明にあわせて見学する。

受入れ先は、市の産業振興会議のメンバー企業や商工会議所会員企業など、日ごろよりおつきあいのある工場が多い。規模の大きい工場もあるが、「株式会社ニシムラ」などドア丁番のシェア日本一を誇るオンリーワン企業、ナンバーワン企業の工場の場合もある。

「火花が散るような小さな工場で、中の人に自らの言葉で説明してもらう方が、〴〵八尾らしい、工場の本来の姿を見ていただいているように思います。ただ、小さな工場は従業員が少ないため、見学会当日の仕事に支障をきたすこともありますので、受入れ態勢の整備は今後必要になるでしょうね」（八尾市産業振興課・村井秀之さん）

参加した教職員や若者からは、「モノ作りの奥深さを感じ、とても感動した」「他社に真似のできない製品の製造現場を見ることができて良かった」とたいへん好評で、リピーターも多いという。また、工業高校など未来のものづくり人材を育てる先生方と、教育現場との接点の少ない工場の従業員との出会い・交流の場としても期待されている。



見学会当日の様子。参加者は毎回15～20人程度で、参加者と説明役とのフェイス・トゥ・フェイスの関係で進められる。



●八尾市 市民産業部 産業振興課  
TEL：072-924-3845  
所在地：大阪府八尾市本町1丁目1-1  
アクセス：近鉄大阪線八尾駅下車



- ▶活用した資源 港町・宿場町・城下町・酒蔵の町の歴史・文化資源（京都市伏見区）、宇治茶、鵜飼（宇治市）
- ▶概要 京都市伏見区と宇治市の集客力のアップを図るため、「伏見・宇治広域観光連携協議会」を発足。相互の強みを活かしながら、新たな魅力づくりを進めている。また、新たに開発した地域ブランド品のおぼろ豆腐に「くらわんか豆腐」と命名し、淀川流域にわたる広域な地域連携につなげることを目指している。

### エリアの連携から、流域の連携へ。「くらわんか豆腐」でつながる地域

京都駅から南側地域への入込客の拡大を目指して、「伏見・宇治広域観光連携協議会」を平成17年9月に発足。具体的な事業として、伏見と宇治とをお得に楽しめる「伏見・宇治つながるクーポンマップ」の発行、宇治の女鵜匠を十石舟に乗せた「鵜飼船」の運航と鵜飼披露のイベント、宇治の抹茶をたてる「十石舟・茶席船」の運航など、地域の強みを組み合わせた交流事業を進めている。

また、まちづくり会社 伏見夢工房と一休庵（滋賀県甲良町）が連携して、素材を吟味し、伏見の名水で仕込んだおぼろ豆腐「くらわんか豆腐」を開発。伏見ブランド品の第1号商品として、一休庵が経営する町家を改造した飲食店「京町おくど 十二屋」と「月の蔵人」、伏見夢百衆、月桂冠大倉記念館などで販売している。

「くらわんか豆腐」という命名は、江戸時代に舟運基地として栄えた大阪・枚方市の「くらわんか舟」に由来している。その販売・プロモーションを進めていながら、伏見と「くらわんか」というイメージがつながり、広く浸透していけば、広域連携の具体的なシンボルとなって、さらなるブランド化が図られるものと期待されている。



夏の夕べを彩る鵜飼



伏見ブランド品の第1号商品「くらわんか豆腐」。



●伏見・宇治広域観光連携協議会  
（京都府・京都市・宇治市・宇治市観光協会・TMO伏見夢工房、伏見観光協会が参加）  
【お問合せ】伏見観光協会 TEL：075-622-8750 所在地：京都市伏見区本材木町668-3  
アクセス：京阪本線中書島駅・丹波橋駅下車  
宇治市観光協会 TEL：0774-23-3334 所在地：京都府宇治市宇治塔川12  
アクセス：JR奈良線、京阪宇治線宇治駅下車



■概要 綾部市（京都府）、小浜市・おおい町（福井県）の2市1町が、「あやべ・おおい・おばま観光交流に関する協定書」を取り交わし、「観光振興等において相互の交流を行ない、友好を深めるとともに広域的な観光事業を実施することにより、相互の発展に寄与する」ことを目的に広域連携を進めている。

### 「海」と「山」の地域資源を有機的に結びながら、相乗効果を高める

もともと懇意にあった2市1町の首長でしたが、綾部市の四方市長の提案により、広域連携の取り組みがスタート。1年あまり担当で協議を進め、平成18年10月に協定書に調印された。事務局は2市1町の持ち回りとし、当初は綾部市商工観光課におかれています。事業予算もそれぞれ同額ずつ拠出し、期間を区切って成果をあげる取り組みを進めることを目指している。

2市1町は、主要地方道小浜綾部線（府道1号、県道1号）や舞鶴若狭自動車道で結ばれており、沿道には優れた観光資源が点在している。広域連携による取り組みを通じて、こうした「海」と「山」の地域資源を相互に活用しながら、有機的に連携させることにより、相乗効果を高めることが狙いである。

協議の場として、幹事会のほかに、実務レベルで具体的な事業の検討を行なう「観光交流実行委員会」を組織。実務に取り組む民間事業者を中心に構成され、2市1町での広域観光パンフレットの制作、観光コースの設定や、グリーンツーリズムの推進など、柔軟な発想を取り入れたアクション・プランづくりに取り組んでいる。



2市1町の実務者が具体的な連携方策について議論する「観光交流実行委員会」。



●綾部市・小浜市・おおい町  
【お問合せ】綾部市 産業団地販売部 商工観光課  
TEL：0773-42-3280  
所在地：綾部市若竹町8-1